

万成石の健太が行く No.7

(有)武田石材
(岡山市)



高橋健太

前回、僕の身近にいる芸術家ということで、石彫家の寺田武弘先生を紹介しましたが、先日その寺田先生の仕事で静岡県に行ってきました。個人の方の別荘の庭に作品を設置するのが今回の仕事です。これまで何度も先生の仕事をお手伝いさせていただき、病院や学校、和菓子屋の店舗等さまざまな現場を体験しました。僕の普段の仕事とは全く環境が違つので、もちろ

ん緊張もしますが、とても新鮮です。『芸術作品を設置する』と一言でいっても、そんなに簡単なことではありません。先生の指示のもと角度や向きを何度も何度も微調整していきます。作品のある空間すべてが作品であり、設置されて初めてその作品が完成したといえるのでしょうか。作品を設置していくときの、そのはりつめた空気感、まさに芸術家魂を目の当たりにする瞬間でもあります。さて今回の現場ですが、やはり静岡県は遠かったです。トラックで岡山を朝四時に出発して、帰っ



「ストン！」を制作中の寺田先生

てきたのは次の日の朝三時頃という過酷なスケジュールでした。先生に同行したのは、僕と弊社専務取締役である高橋信一の二人です。長い道のりでしたが、当初の予定通り正午頃に到着。現場は富士山が望める自然豊かな別荘で、多くの木に囲まれゆったりと落ち着いた雰囲気でした。またその場所は、周囲には歴代首相の別荘もある超高級別荘地でした。まず初めに、目玉となるおよそ

二七のモニュメントを庭の入口近くに設置しました。この作品は石の真ん中をくり抜き、くり抜いた石をまたそこにはめ込んでいます。岡山県の倉敷市やオーストラリアにも設置されている寺田先生の代表作の一つです。ちなみに作品名は「ストン！」というものです。次に石のテーブルを設置しました。この作品は一つの玉石から作っています。文章では伝えづらいますが、クローバーの模様が浮き出るように石を二つに割り、組み合わせています。また回りに並べてある石の椅子も同じ玉石から作っています。これは本当にもの凄い技術と発想で、最初にこの作品を見たときは感動しました。しかも、両作品ともすべて削岩機とノミなどで創りだしています。現場が思っていたより難しく予定より手間取ってしまったことも



【上】静岡の別荘に設置したモニュメント「ストーン！」と石のテーブル「原始人の食卓」



【左】削岩機は、寺田先生が作品を作る上で必需品

ありましたが、この二つの作品を設置し、作業は無事完了しました。家・庭・作品がうまくマッチしたとても素敵な空間が出来上がりました。

石のテーブルの作品名は、「原始人の食卓」といいます。来年の秋

には今回よりもっと大きなテーブルを制作して、岡山県の蒜山ひるせんに設置予定です。蒜山といえは今年のB1グランプリで「蒜山やきそば」が見事二位に輝いたので少し有名になったと思いますが、岡山県の避暑地の一つです。

そこにはすでに寺田先生が足掛け五年、万成石を全部で一〇〇〇近く使用した「万成平まんなりたいら」という大作がありますが、そこに追加で三十三年ぶりに作品を設置します。蒜山の山々の広大な自然をバックに、存在感のある石がいくつも点在しているようなスケールの大きな作品です。僕が初めてその作品を見たのは冬だったので、山や作品にも少し雪が積もっていて、物音一つしない、凜とした空間に心

を奪われました。この雪景色までも全て計算されているように感じ、作品と自然とが一体になった瞬間を見ました。

これまでも自分が携わる以前の寺田先生の作品を見に行ったことがあります。その作品の素晴らしさは勿論ですが、創作過程や設置に関していろいろ考えてしまうことがよくあります。「どうやってこの石を積んだのだろう」とか「どうやって運んだのだろう」と考えていると、普通の人はこんなこと考えながら作品を見てはいないだろうと思ひ、自分の中の石屋としてのプロ意識を感じます。

色々な仕事を体験することは勿論ですが、色々な作品を見ることが石屋として大切なことだと思います。芸術作品に限らず、建築物や墓石など広い視野で石を見ていくことと思います。